慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	これからのMOOCの話をしよう
Sub Title	
Author	大川, 恵子(Ōkawa, Keiko)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2020
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC review Keio University). Vol.7, No.1 (2020. 3) ,p.19- 23
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集 DMC研究センターシンポジウム第9回「大学教育のミライ： オープンエデュケーションのその先へ」これからのMOOCの話をしよう 開催日時 : 2019年11月20日 (水) 14:00〜19:00 開催場所 : 慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎2F大会議室 講演1 グローバルMOOCの経験から
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000007-0019

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

講演 1　グローバル MOOC の経験から

これからの MOOC の話をしよう

大川 恵子

（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科

教授／DMC 研究センター副所長）

DMC 副所長と慶應メディアデザイン研究科の教授をしております、大川と申します。きょうはよろしくお願いいたします。

きょうのテーマは、これからの MOOC の話をしようということで、こちらにお集まりの皆さんは、何らかの形で MOOC と関係しているかと思います。それで、本日のデモを見て、会話のきっかけになっていただければと思いまして、5 色のシールをテーブルにご用意いたしました。皆さんと MOOC との関わりで、一番、近い色をこの名札に付けて、交流に役立てていただければと思っています。私はラーニングデザインをしながら学んでいきたいなと思っているので、赤と緑になっています。

皆さんの中には、MOOC には作る人もおりますし、MOOC で勉強をする人もいますし、作るための環境を支えてくれている人や、大学のマネジメントとして推進する人もおります。そしてコンテンツを作るという意味では、ビジュアルデザイナー、映像を作ったり、文章を書いたりする方など、ありとあらゆる人たちが関わっていらっしゃいます。もう既にこちらの方たちは、コースを作っている方も、ちらほらとお顔が見えておりますので、交流をしていただくようにこのシールをぜひお貼りください。そして MOOC の話をしていきたいと思います。

MOOC というのは、もちろん皆さんもう既にご存じかと思いますが、Massive Open Online Course というものです。あまりマッシブじゃないコースもありますし、オープンじゃないコースもあります。オンラインは多分あっているのですが、あまり堅く考えなくともいいかなと私は思っています。

MOOC に関しては、MOOC と言われたくないなというような人たちやコースもあります。いい印象の人もいますが、逆に、ずっとビデオ見て勉強するだけでしょと思っているような人たちには、そうではないのですと言いたいところもあります。きょうは、ざっくりオープンオンラインコースということで話を進めたいと思います。

これからの MOOC の話をするにあたり、今までの MOOC は何なのか、ということを、少しだけ情報共有してから始めたいと思います。よく、共有される写真としてこんな写真があります。1856 年の大学の授業の様子ですが、今とあまり変わってないので、大学はこれからもっと変わらないといけないのではないかと言われています。

これは 2 年前、2017 年湘南藤沢キャンパ

スの大きな授業なのですが、写真と少し似ていますよね。でも、実はよく見ると違うのです。皆さん手元に、ラップトップがあって、教室はオンラインで全員の心がつながっております。学生たちはもう皆さん体がオンラインなのです。つまり、オンラインで大学教育どうやっていくのかというのは、変えるということよりも、チョイスが増えていくということなのではないかと、この絵を見て私は思います。変わってないと言う方もいますし、変わったと思う人もいる。私たちは、変わったということでもっと良くしていきたいと思っています。

今までの MOOC のコースは、既にいろいろなプラットフォームと呼ばれているものがあって、独自にオンライン化するという大学もあります。慶應義塾も独自のプラットフォームを持っています。ただ、独自のプラットフォームはやはり、アクセス数がそんなに伸びないというのもありますし、Learner ともっと広くラーニングしていきたいというのもあって、目的によっていろいろなプラットフォームを使っています。

edX は東京やアメリカの東海岸を中心にしている大学、MIT とハーバードがやっています。そして Coursera は、西海岸で立ち上げられたものです。Udacity や FutureLearn は、2012 年ぐらいから始まったプラットフォームです。ただ、MOOC というのは、もっと以前から活動というか、コンセプトがあって、大学はいろいろな形でオンラインのコースを出してきています。きょうお集まりいただいた講演者の皆さまや、来てくださっている大学の方たちの中には、もう edX でコースを何個も出しておられる大学もありますし、Coursera にたくさん出している大学もおられます。また、これから何かに参加しようかなと思っている大学もあります。われわれは FutureLearn という、イギリス、ロンドンに本部のあるソーシャルラーニングプラットフォームに参加しています。

どのくらいマッシブなのかといいますと、いろいろ調べてみたところ 8000 万人以上が、もう、MOOC 学習者として登録されていると言われています。非常に多くの方たちがいます。

この中で先ほど申し上げた、いろいろなプラットフォームの中で FutureLearn というのがどんなものなのかといいますと、ロンドンで、もともとオープンユニバーシティという通信教育で学位を取るという大学を母体としていまして、そこに BBC からのファンドが入ってつくられた組織です。ソーシャルラーニングを中心にオンライン教

育をやっていて、きょうはまさにこのシンポジウムの前に、ソーシャルラーニングのデザインワークショップをやっておりました。こちらにいらっしゃる何人かの方には、新しいコースのデザインを、もう既に 5 つも作っていただきました。このように、いろいろな形でオンラインラーニングは進みます。

現在、231 カ国から約 900 万人の学習者が登録受講しております。231 カ国というのは相当、面白い数字だと思うのですが、UN は 195 カ国ぐらいしか認めていません。インターネットのドメイン名ですが、トップレベルドメイン、カントリーコードは 230 個くらいあるので、多分その数だと思います。

コースは基本無料ですが、最近は有料コースの体験も増えてきています。このあたりは、後でまた皆さんと議論していきたいと思っています。この中で慶應義塾の FutureLearn プロジェクトは何をやっているのかというと、この FutureLearn 上にコースを作るというのをミッションにしていて、大学の知の発信と社会貢献、大学の精神的な教育手法の開発、教育力の向上、そして大学のグローバル化の推進ということを掲げて活動をしています。

現在、6 コースを開講しておりまして、今、2 コース作っている最中です。きょうは、コースについてのデモも出ております。6 コース全てを丁寧に説明する説明員もおりますので、ぜひ、見ていただければと思います。現在、23 Run と書いてありますが、再放送もありますが、これまでに 23 回ぐらい走らせていて、慶應のコースだけで、今、6 万 1000 人の参加者がいます。さらに 190 カ国ぐらいから参加しています。多くはやはり UK のユーザーです。これで大体どんな Learner が今、われわれのコースに登録しているかということがわかるのではないかと思います。

慶應義塾の FutureLearn チームでは、これから慶應義塾で MOOC をどうやって大学教育に組み込んでいけるのかということを、考えていくのが大きなミッションになっております。フェイズ 1 はまず、コース作ってみよう、フェイズ 2 が、これからどうやったら大学に貢献できるのか考えようで、今、フェイズ 2 の最中です。

このシンポジウムはいろいろな人と様々な意見を交換しながら、フェイズ 3 に向けてストラテジを作る、そのヒントになればいいなと思って、とても期待をしています。どういうことがいいことなのかと考えるときに、われわれがいつも、Learner、エデュケーター、サポーター、大学、そして社会、この 5 つのステークホルダー全てが満足することを目標にしたコースづくりや体制づくりをどうしたらいいかと考えています。そして、この 5 つのステークホルダーにつ

いて、われわれはどういうキーベネフィットがあるか、ということも考えています。

例えば、Learner にとってはどうか、エデュケーターにとってはどうかということですが、Learner にとっては、グローバルなソーシャルラーニングの経験というのが、これから学び続ける人たちにとっては、大きな価値になるのではないかと思うので、そういうことを体験してもらえるようなことを考えています。

それから、エデュケーターにとっては、世界中にいる学習者にリーチできるというのはとても面白い経験だと思いますし、実際にコースで講義している先生方のお話もぜひじっくり聞いていただければと思っています。

また、大学にとってはグローバル社会の教育を通した貢献ということもありますが、大学自体はいろいろな国の人たちがもう既に入ってくるようになっているので、グローバル化に貢献できるのではないかと考えています。

その中で、われわれのチームは、エデュケーター、ラーニングデザインとサポート、プロジェクトマネジメント、ビデオプロダクションというチーム構成ですので、先ほど皆さんに貼っていただいたシールと似たようなチーム構成になっています。それに加えて、インターナショナルのリレーションや IPO など権利関係を行うところがございます

し、さらに PR やファシリテーターも加わって、一つのチームでコースを作りや運営をしています。一例ですが、これが、大学内のエデュケーターのいる組織です。コースが変わるたびにこのエデュケーターの部分は変わっていきますが、こちらの部分は、ずっと同じ人間がやっています。きょうは、ここに写真が出ているメンバーは大体おりますので、話が聞きたい方は、ぜひ声を掛けてください。私たちは準備からデザインして、ローンチをして、リフレクションをして、またリデザインするというのを、グルグル回しています。

それでは、FutureLearn の中での学びというのを、ぜひデモを見ながら、ご覧になっていただきたいと思います。私たちはストーリーテリングと、会話の誘発と、進捗の祝い、ということをモットーにコースを作っています。きょう、ワークショップに参加された方は、この辺のところをディスカッションできたかと思います。そして、ソーシャルラーニングは自分がソーシャルするだけではなく、誰かが学んでいるのを見るだけでも、ソーシャルラーニングであり、いろいろな

形のコミュニケーションを誘発することで学びが深くなるだろうと考えています。

これからの MOOC と大学のことを考えようというのがきょうのテーマですので、最後のスライドでもう一度、いろいろな立場の人たちから見た MOOC の価値ということを、考えていきたいと思っています。

それでは、簡単ですが、今までの MOOC と慶應義塾の MOOC チームの紹介をいたしました。ありがとうございました。